沿革

1929 年 ■ 武蔵高等工科学校として創立
1949 年 ■ 学制改革により武蔵工業大学に昇格
工学部を開設
1955 年 ■ 学校法人武蔵工業大学に学校法人東横学園を合併し、
学校法人五島育英会に改称
1960 年 ■ 原子力研究所を開設
1966 年 ■ 大学院工学研究科を開設
1997 年 ■ 環境情報学部を開設
1998 年 ■ 日本の大学として初めて環境に関する国際規格
ISO14001 の認証を取得（環境情報学部）
2001 年 ■ 大学院環境情報学研究科を開設
2004 年 ■ 総合研究所を開設
2007 年 ■ 知識工学部を開設
2009 年 ■ **武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合し、**
東京都市大学に改称
都市生活学部を開設
人間科学部を開設
2010 年 ■ 大学院工学研究科共同原子力専攻を早稲田大学と共同で開設
2013 年 ■ 環境情報学部を改組し、環境学部、メディア情報学部を開設
2015 年 ■ 世田谷区と包括協定を締結
「二子玉川夢キャンパス」を開設
「東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）」を開始
2017 年 ■ 世田谷区、区内の複数大学・企業等と連携し、
「世田谷プラットフォーム」を形成
2018 年 ■ 工学研究科を総合理工学研究科へ名称変更
「アジア・大洋州 5 大学連合（AOFUA）」を設立
2019 年 ■ 国際学生寮を開設
創立 90 周年
2020 年 ■ 工学部を理工学部に名称変更
知識工学部を情報工学部に名称変更
建築都市デザイン学部を開設
2022 年 ■ 都市生活学部と人間科学部が世田谷キャンパスに移転
2023 年 ■ デザイン・データ科学部を開設

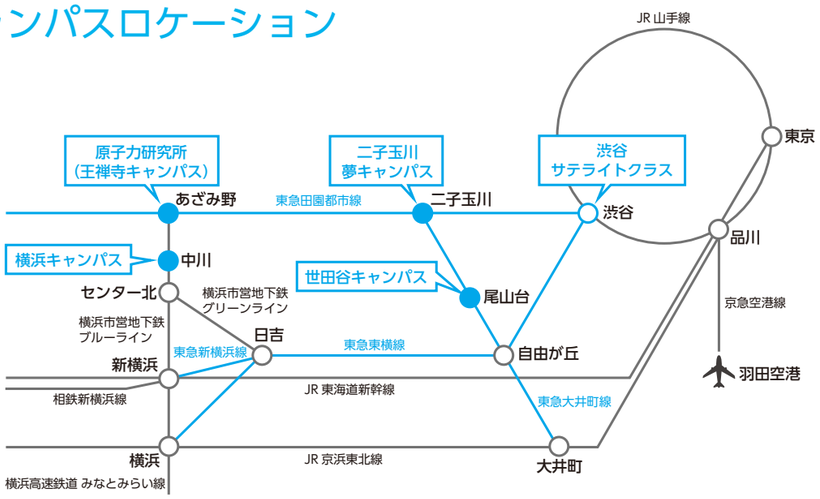
シンボルマーク

略称 “ 都市大 ” の「都市」の “ T ” を図案化したものです。サステナブルな明るい未来を見通す「窓」でもあり、そうした社会を実現するための「知恵のフキダシ」の象形でもあります。マークの色調（ブランドカラー）は、知性とサステナブルな明るい未来を意味しています。

UNIVERSITY ACCREDITED 2017.4~2024.3

東京都市大学WEBサイト

キャンパスロケーション



VEGETABLE OIL INK

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C013238

お問い合わせ：東京都市大学　学長室（広報担当）　TEL 03-6809-7450　https://www.tcu.ac.jp

2023 年 3 月 発行
（4 月時点の情報を記載）

東京都市大学
TOKYO CITY UNIVERSITY

美しい時代へ —— 東急グループ

大学案内 2023

創立 100 周年、
その先の未来に向かって

いま世界は予測不可能な時代、ゲームチェンジ時代と言われ、大きな激動期に差しかかっています。このような社会情勢のもとで、天然資源に乏しい我が国が存在感を示し、成長を遂げていくには、国際社会で活躍できる優秀な人材の育成が不可欠です。

そのような中、本学は2029年の創立100周年に向け、中長期計画「アクションプラン2030」のもと、「Best Value University =教育付加価値最大の大学」を目指して、さまざまな改革に取り組んでいます。

2023 年 4 月には、新たに「デザイン・データ科学部」を横浜キャンパスに開設しました。同学部では、分析力を基礎に創造力も鍛え、新たな「もの」と「こと」を具体的にデザイン（構想・設計・構築）することを学びます。全員が本学独自の国際人育成プログラム「東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）」による海外留学を経験して国際感覚も養い、確かな分析力と創造力を兼ね備えたグローバルに活躍できる「イノベーション人材」になることと期待しています。

また本学では、SDGs（持続可能な開発目標）やカーボンニュートラル（温暖化ガス排出量実質ゼロ）の実現に資する教育研究にも注力しています。教育面では文部科学省の補助事業にも採択された、DX による実践的な環境・エネルギーマネジメント教育を横浜キャンパスでスタートしたほか、研究面ではディーゼル車並みの高出力を実現する水素燃料エンジントラックの開発などが、大きな社会的関心を集めています。

教育研究活動の礎となるキャンパス環境の整備も大きく進展し、2022 年度には、世田谷キャンパスで7号館と 10 号館（第 1 期工事分）の供用がスタートしました。ZEB 化などで環境面にも配慮しつつ、学生や教職員が自然に交流して学び合うためのスペースも広く設け、キャンパスライフの魅力をより一層高めています。

2029 年の、創立 100 周年に向けたカウントダウンが進んでいます。しかしその 100 周年も、あくまで通過点でしかありません。私たちはその先の未来も見据え、既存の課題を教育研究という大学の本分を通じて解決する、真の「Best Value University」として社会に貢献してまいる所存です。

東京都市大学 学長
三木 千壽

引き続き、本学活動へのご理解と
ご支援をよろしくお願いいたします。

建学の精神 公正・自由・自治

本学は、“工学教育の理想”を求める学生たちが中心となって、その熱情を受け止めた3名の創立者により創立された、日本において極めて稀な、学生の熱意が創り上げた大学です。この建学の精神は、独立自主の思い溢れる学生たちが掲げた、夢と希望のシンボルであり、本学は、この精神を継承しながら、新しい時代と社会の要請に応える大学へとさらなる進化を目指します。

理念 持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究

「持続可能な社会発展」とは、環境を損なうことなく社会を発展させること。ここでいう環境とは、単に、自然的なものだけでなく、社会的なものも含んだ広義の環境です。私たちが住むこの地球を多角的、総合的に見ながら、持続的な発展へと導くこと、そして、そのための人材育成と学術研究の推進こそが、本学の役割・使命です。

SDGs への取り組み

本学は SDGs の達成に資する教育と研究に取り組んでいます。とくに昨今、国内外での関心が急速に高まっているカーボンニュートラルの実現には、国、地方自治体、大学、企業等のあらゆる主体が、それぞれの立場や強みを活かして取り組むことが必要です。なかでも、政策や技術革新の基盤となる科学的知見を創出し、その知を普及する使命を持つ大学が果たす役割は極めて大きいと考えます。大学と地域が連携し、地域の脱炭素化を進めることや、そのモデルを国内外に展開していくことなど、大学への期待はますます高まっています。

このような観点を創設当初から持つ横浜キャンパスは、自然環境に配慮したエコ・キャンパスとして、1998 年に日本の大学で初めて国際環境規格 ISO14001 の認証を受けました。キャンパスライフそのものから環境問題を学ぶ、知の拠点づくりの先駆けを実現しています。その活動は、とくに学生を構成員とする ISO 学生委員会において、主に学内の環境改善や環境意識向上を目的に、脈々と受け継がれています。また、環境 ISO フォーラムの開催やエコプロダクツへの出展なども行っています。

Education

社会で通用する力を育む

**在学中からさまざまな経験を積み重ね、
実践的な思考力を早期に育成。**

グローバル化を背景に社会の課題がますます高度化、複雑化している現代では、教養の修得や専門知識だけでなく、それらを実際に活用し、課題解決に取り組む実践力が求められます。学生自身が現実の課題と対峙し、その解決プロセスに参画することを通じて、実践的思考力を鍛えることの意義は、ますます大きくなっています。本学では、時代の要請に応えた独自の教育制度や多様な職種を体験できるインターンシップ制度などを通じ、学生個々の実践的な思考力を磨くプログラムを提供しています。教育制度の改善に不断に取り組むことで、常に社会が求める人材の育成に努めていきます。

Action

社会の要請に応える本学独自の教育制度

本学では、データサイエンス教育への社会的な期待に応え、文系・理系を問わず全ての学生を対象に数理・データサイエンス教育を展開しています。また、2021 年 4 月より、「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラム※をスタートしました。同プログラムは、これまでにない大胆な文理融合と分野横断を実践しながら激動の「ゲームチェンジ時代」をリードできる、幅広い教養と深い専門性を修得するためのカリキュラムです。

※ 2020 年度 文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択。現在は、理工学部で実施。今後、全学へ展開の予定。

脱炭素社会の実現に資する教育研究

本学では、エネルギーマネジメントの基礎とデジタルリテラシーを理解し、IoT 技術を用いたデータ分析能力に秀でた人材を育てる「カーボンニュートラルを実現するための高度デジタル・環境・エネルギー人材育成プログラム※」を推進しています。現在は、同プログラムのもと、ハード・システム・ソフトの三側面から脱炭素社会の構築を担う教育活動を推進しています。

※文部科学省の令和 3 年度 大学改革推進等補助金「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」に採択。

実社会への適応力を高めるインターンシップ

本学には、通常のインターンシップに加え、東急グループ各社との連携による「東急グループインターンシップ」と、海外企業での約 1 カ月にわたる就業体験を行う「海外インターンシップ※」という独自の制度があり、学生一人ひとりの状況や興味、関心に応じた参加が可能となっています。学生は、これらの体験によって、自身が社会人として働く姿を早くからイメージできるようになり、実社会への適応力を培います。

※ 2020 年度インターンシップアワード「文部科学大臣賞」を受賞。

Research

未来を創造する力を育む

**伝統ある教育と最先端の研究を融合し、
未来を拓く人材を育成。**

社会に存在する課題の解決や技術の発展に貢献するため、本学は目標を立ててプロジェクトに取り組むことを通じ、未来を拓く学生の創造力を養います。都市工学、ナノエレクトロニクス、自動車、グリーンインフラをはじめとするさまざまな分野において、民間企業や官公庁などと連携した研究を推進しています。90 年を超える専門的実践教育の伝統を継承し、今後も、社会の発展を支える創造力豊かな人材の育成に努めていきます。

Action

高度な研究を実現する最先端の研究施設

次世代技術の研究開発を推進する「総合研究所」や、文部科学省「先端研究基盤共用促進事業」に採択された「ナノ科学技術学際研究センター」などで、常に先を見据えた新しい技術に取り組み、研究開発を通じた高度な教育を実践しています。

カーボンニュートラルの達成に資する水素エネルギーの研究

本学は、1974 年に国内初となる水素燃料エンジン搭載の自動車を開発しました。現在でも、持続可能な社会の実現に向け、燃焼時に排出する窒素酸化物の大幅削減に寄与する「高効率・ゼロエミッション直噴水素エンジン」や、廃材や賞味期限切れ食品などから水素を生み出す「木質バイオマスのハイブリッド触媒反応」など水素エネルギーの活用に向けた研究を進めています。

都市のデジタルトランスフォーメーションを研究

未来都市研究機構（2016 年、総合研究所内に設置）では、デジタル技術によって得られたデータを活用しつつ、都市空間を人間中心に再設計することによって、さまざまな都市課題を解決する「アーバンデジタルトランスフォーメーション」の実現に向け、理工学･社会科学等、様々な専門分野の研究者が横断的に研究を推進、行政や企業など学外との連携も強化しています。

International

世界とつながる力を育む

**一人ひとりの力を最大限に高め、
世界で活躍できる人材を育成。**

社会や人々の生活を豊かにするためには、時代の変化を的確に読み取り、未来を創造できるグローバルな視野と教養、実践的な専門性の獲得に直結する教育が欠かせません。本学では、海外の大学との連携や独自の語学教育など、世界に通用する実践力を養う、さまざまなプログラムを行っています。また、2019 年 4 月には、世田谷キャンパスの付近に国際学生寮を開設。今後も世界とつながり、第一線で活躍する人材の育成に努めていきます。

Action

グローバル化を推進する環境

2022 年 4 月にオープンした 7 号館 2 階には、本学のグローバル化を推進する拠点として、「Taki Global Floor」が設置されています。同フロアには、ワークショップやプレゼンテーションに適したスペースが設けられており、海外賓客や留学生との国際交流の場としても活用されています。また、2022 年には「アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム※」をスタートさせ、日本のみならず世界の課題を解決する人材の育成にも注力しています。

※文部科学省の令和 4 年度 大学教育再生戦略推進費「大学の世界展開力強化事業～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～」に選定。

国際人育成のための英語教育

グローバルな時代に活躍できる人材を育てるためのプログラムを実施しています。国際人への入り口と位置付ける「東京都市大学オーストラリアプログラム (TAP)」では、1 年次からの準備教育と 2 年次に約 4 ヵ月間の留学を実施し、国際的な視野とコミュニケーション能力を身に付けます。

世界に広がるネットワーク

世界各国の約 30 大学と協定を結んでいるほか、2018 年 6 月には本学が中心となって、フィリピン・オーストラリア・タイ ・ マレーシアの有力大学と「アジア ・大洋州 5 大学連合 (ASIA-OCEANIA FIVE UNIVERSITIES ALLIANCE)」を設立しました。学期単位での交換留学や単位の相互認定、サマーキャンプ、ICT を活用した遠隔授業などを実施しています。

Sustainable Development Goals

明日につなげる力を育む

**多様性を理解し、持続可能な社会を実現する
人材を育成。**

いま世界では、2015 年の国連サミットで採択された SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みが進められています。このような背景の中で、本学は「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を理念に掲げ、全ての研究室でカーボンニュートラルを含む全ての SDGs の達成に資する教育と研究に取り組んでいます。

Action

自然環境に配慮したエコ・キャンパスの実現

横浜キャンパスは、人と自然の共生を実現したエコ・キャンパスで、日常の学生生活から環境問題を学ぶことができます。構内には、自然環境との調和を図るためのさまざまな工夫を施すとともに、ISO 学生委員会を中心とした、環境に配慮した活動が高い評価を受け、1998 年には日本の大学として初めて「ISO14001」の認証を取得しました。

ダイバーシティ推進の宣言

本学は、建学の精神「公正、自由、自治」に基づき、あらゆる差別に反対するとともに、性別、性的指向・性自認、国籍、人種、民族、文化、宗教、信条、障がい、年齢などにかかわらず、全ての人が、人権や尊厳、多様な価値観や生き方を尊重され、その個性と能力を十分に発揮できるよう、ダイバーシティの推進に努めることを宣言しています。

持続可能な教育研究環境の整備

世田谷キャンパスの 7 号館（2021 年度竣工）は、経済産業省の補助事業である令和 2 年度 ZEB※(Net Zero Energy Building［ネット・ゼロ・エネルギー・ビル］）実証事業に採択されています。同館は、ZEH・ZEB による住宅・建築物の省エネ化・低炭素化（CO_2 削減量は約 634［t-CO_2/ 年］を見込む）を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症対策の一環として「自然換気システム」を採用するなどの先進性を有しています。

※基準一次エネルギー（空調、換気、照明、給湯、昇降機、その他）の消費量を削減したもの【省エネ】と、エネルギーを創ったもの【創エネ】をプラスして、正味で 100％以上省エネしようとしているビルのこと。

Graduate School of Integrative Science and Engineering

大学院

総合理工学研究科

世田谷キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

日々進歩する科学技術と変化の激しい社会情勢を念頭に、高度で幅広い理工学に関する理論と実践力を修得させて、学際的視野を持って応用力の涵養を図るとともに高い倫理観と国際性を備えさせることによって、科学技術に立脚した課題の発見と多角的視野から解決策を導くことで社会貢献ができる人材の養成を目的とします。

総合理工学研究科

専攻

機械／電気・化学／情報／建築・都市／自然科学／共同原子力（早稲田大学との共同大学院）（博士前期課程・博士後期課程）

私立理工学系トップクラスの規模を誇る教育・研究環境で、技術者・研究者として国際的に活躍できる能力を養います。

入学定員：博士前期課程 276 名、博士後期課程：38 名

教員数※1、2：博士前期課程 152 名、博士後期課程 140 名

※ 1 博士前期課程及び博士後期課程の両方を担当する専任教員は、各課程の人数にそれぞれ含む。
※ 2 共同原子力専攻は東京都市大学と早稲田大学の共同教育課程であるため、上記総合理工学研究科の教員数には早稲田大学の教員数を含む。

Graduate School of Environmental and Information Studies

大学院

環境情報学研究科

世田谷・横浜キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

環境、情報、都市生活に関わる高度な教育と社会的要請に応える研究の実践を通して、複雑化する世界や地域の中から課題を的確に発見し解決するために、自然、数理及び社会科学的な分析力と洞察力を養い、多様な利害関係者と連携しつつ多角的に探究し、新たな価値と豊かな社会を創造することができる人材の養成を目的とします。

環境情報学研究科

専攻

環境情報学／都市生活学（博士前期課程・博士後期課程）

世界で活躍する教員による実践的指導のもとで、21 世紀最大の課題である「環境」「情報」「都市」に挑む高い専門力を養います。

入学定員：博士前期課程 26 名、博士後期課程：4 名

教員数※1：博士前期課程 57 名、博士後期課程 51 名

※ 1 博士前期課程及び博士後期課程の両方を担当する専任教員は、各課程の人数にそれぞれ含む。

Faculty of Science and Engineering

理工学部

世田谷キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

教育理念である「理論と実践」のもと、理工学に関する深い専門性、幅広い教養、豊かな国際性、多様なコミュニケーション能力及び高い倫理観を涵養し、これらの学びを統合させることによって、社会に変革をもたらすための問いを生み出し、社会課題の解決に果敢に挑戦していく研鑽を積むことで、未来を切り拓く探究心、判断力及び実行力を持つ人材の養成を目的とします。

機械工学科

研究分野

内燃機関工学／機械材料／流体工学／材料力学／機械力学／表面加工

力学と設計科学を学び、実践を重ねることで、技術革新を生み出せる技術者を育てます。

入学定員：120 名　教員数：18 名

医用工学科

研究分野

臨床器械工学／生体計測工学／医用材料工学／細胞・組織工学／医用電子工学

理工学と医学を有機的に融合し、多様化する医療関連機器分野の進歩に貢献する人材を育てます。

入学定員：60 名　教員数：8 名

応用化学科

研究分野

有機・生物化学／無機・分析化学／物理化学・化学工学

新規物質の創製から利用まで多岐にわたる化学を修得し、産業社会の持続的な発展に寄与する人材を育てます。

入学定員：75 名　教員数：12 名

機械システム工学科

研究分野

材料強度学／機械制御工学／航空宇宙工学／熱流体工学／計測電機制御工学／ロボティクス

機械・電気・制御工学を統合し、先進的な機械システムを構築できる技術者を育てます。

入学定員：110 名　教員数：15 名

電気電子通信工学科

研究分野

グリーンエレクトロニクス／次世代ドライブシステム／情報通信プラットフォーム／超スマートエネルギー社会

超スマート社会の実現に向け、社会を変革し、新しい「問い」や「価値」を生み出す人材を育てます。

入学定員：150 名　教員数：22 名

原子力安全工学科

研究分野

原子炉工学／核燃料サイクル工学／原子力構造設計工学／原子力安全工学／放射線工学

原子力の理論と技術を修得し、原子力／放射線を安全に運用・応用できる高度な技術者を育てます。

入学定員：45 名　教員数：10 名

自然科学科

研究分野

地球の歴史／生命の化学／理論物理学／生物の進化／分子の科学／数学

自然科学について幅広く学び、真理の探究を目指して、持続可能な発展に貢献する人材を育てます。

入学定員：60 名　教員数：19 名

Faculty of Architecture and Urban Design

建築都市デザイン学部

世田谷キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

建築、社会基盤施設から都市デザインまでをフィールドとし、持続的な建築・都市の創造・再生を実現するため、社会の要請に対応できる高い能力を備えた人材の養成を目的とします。

建築学科

研究分野

建築計画・設計／建築環境設備／建築構造／建築生産・材料

工学的な知識・技術、芸術的な表現力・感性を兼ね備えた建築の専門家を育てます。

入学定員：120 名　教員数：16 名

都市工学科

研究分野

都市デザイン／都市防災／都市環境

社会の中核となり、人・社会・自然が共生する都市環境を実現する技術者を育てます。

入学定員：100 名　教員数：11 名

Faculty of Information Technology

情報工学部

世田谷キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

高度に発達した情報技術を基盤とした豊かで持続可能な社会の実現に向けて、情報工学に関する基礎から応用までの知識や技術を体系的に身に付けるとともに、それらを現実の問題に適用して解決できる能力を有し、社会が要請する情報システムやサービスを実現して国際社会で活躍できる人材の養成を目的とします。

情報科学科

研究分野

計算機アーキテクチャ／知識情報処理／応用数理／計算機ソフトウェア／画像工学／制御システム

コンピュータの可能性を拡大し、より豊かな社会の実現に取り組む人材を育てます。

入学定員：100 名　教員数：14 名

知能情報工学科

研究分野

大規模データ解析／知的経営システム／産業システム／人間情報システム／人工知能

ビッグデータ分析と AI や人間、組織、クラウドなどの知能を活用し、超スマート社会で新しい価値を創造する技術者を育てます。

入学定員：80 名　教員数：9 名

Faculty of Environmental Studies

環境学部

横浜キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

グローバルな視野のもと、地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、自然環境と都市環境を調和させることで持続可能な未来社会を創造し、政策科学に立脚した経済システムを環境調和型に転換することによって、カーボンニュートラルの実現、ひいては循環型で持続可能な社会の構築に貢献できる人材の養成を目的とします。

環境創生学科

研究分野

生態環境／都市環境

生態環境と都市環境を理解し、人と自然の持続的な共存を実現する専門家を育てます。

入学定員：90 名　教員数：10 名

環境経営システム学科

研究分野

環境経営／環境政策

社会と環境が抱える問題をシステム思考で解決し、新たな暮らしの価値を創出する人材を育てます。

入学定員：90 名　教員数：9 名

Faculty of Informatics

メディア情報学部

横浜キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

人間と情報通信技術の調和による、より良い社会の実現に向けて、人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解した上で、社会的仕組みや情報システムを調査・分析する能力を身に付けるとともに、新しい仕組みやシステムを実現・評価・改善することができる人材の養成を目的とします。

社会メディア学科

研究分野

ソーシャルデザイン／メディア・コミュニケーション

情報・メディアが抱える課題を調査分析し、解決策を発案・提言できる人材を育てます。

入学定員：90 名　教員数：9 名

情報システム学科

研究分野

システムデザイン／ ICT アセスメント

人を幸せにする情報システムを戦略的に提言・説明し、実現できる人材を育てます。

入学定員：100 名　教員数：8 名

Faculty of Urban Life Studies

都市生活学部

世田谷キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

都市の経営とデザインに関する企画力を有し、事業の推進及び管理運営を担う構想力・実践力を兼ね備え、都市に関する豊富な知見と国際人として活躍できるコミュニケーションスキルを活用して、魅力的で持続可能な都市生活の創造に資する人材の養成を目的とします。

都市生活学科

研究分野

都市のライフスタイル／都市のマネジメント／都市のデザイン／都市のしくみ

魅力的で持続可能な都市生活を創造し、国際社会に柔軟に対応できる人材を育てます。

入学定員：160 名　教員数：19 名

Faculty of Human Life Sciences

人間科学部

世田谷キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

いのちを大切にし、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性を備えた高い専門性を持つ、自立した人材の養成を目的とします。

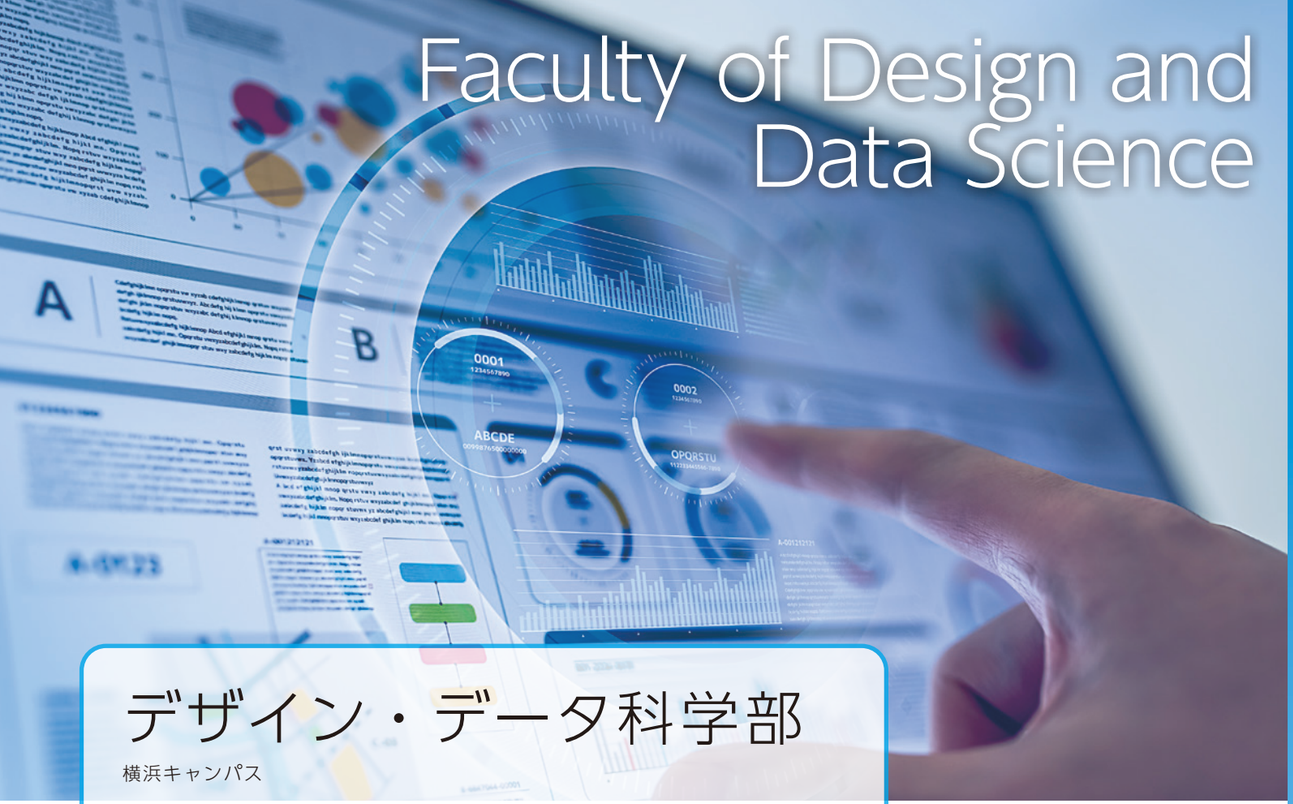
人間科学科（2023 年度より児童学科から名称変更）

研究分野

幼児教育／保育学／心理／児童福祉／子どもの保健／人間科学

感性と知性を備え、子どもを含むすべての人にとっての最善を深慮できる自立した人材を育てます。

入学定員：100 名　教員数：14 名



Faculty of Design and Data Science

デザイン・データ科学部

横浜キャンパス

■人材の養成及び教育研究上の目的

定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とします。

デザイン・データ科学科

研究分野

データ科学 ／ ユーザー エクスペリエンス デザイン ／ ソーシャル システム デザイン

データ科学に基づき人と社会の課題を解決する「もの」と「こと」をデザインできる人材を育てます。

入学定員：100 名　教員数：16 名

TCU topics

横浜キャンパスに「デザイン・データ科学部」を開設

2023 年 4 月、文理融合の文化を育む横浜キャンパスに、新しい学部「デザイン・データ科学部」を開設しました。「データサイエンス」を活かした分析力を基盤に創造力を磨き、新たな「もの」と「こと」を具体的に構想・設計・構築します。革新的でグローバルなプロダクト（もの）やサービス（こと）をデザインし、実際に人々の生活を豊かにする発明がイノベーションです。
文系理系を問わず、確かな分析力と創造力を兼ね備え、新たなイノベーションを起こしていく人材を育成します。

世田谷キャンパスに 2 学部が移転し、多様性が広がる

2022 年 4 月、世田谷キャンパスに 2 学部（都市生活学部・人間科学部）が移転し、5 学部体制となることで、女性教員も倍増するとともに、女子学生の割合も上昇（4 人に 1 人）しました。新たな世田谷キャンパスでは、多様な学部・学科の学生たちの出会いと対話が自然に生まれ、そのシナジーが学びと研究のさらなる充実につながっています。

オリジナルのレトルトカレーを発売

2022 年 9 月、「都市大カレー」を発売しました。これは、災害備蓄食料として作られた商品で、学生が主体となって進めた PBL 活動の成果でもあります。
備蓄のために賞味期限が長いだけではなく、将来的に学内のローリングストック（消費しながら備蓄する）として活用することも視野に「継続的に食べたいと思える、美味しいレトルトカレー」をコンセプトとしました。価格は 1 食 400 円（税込み）。

キャンパス、教育・研究施設紹介

東京の世田谷、神奈川の横浜という、国内でも有数の教育文化水準を誇る美しい街に立地する、東京都市大学の２キャンパス。いずれも緑豊かで閑静な住宅街に位置し、都心へのアクセスも良好。落ち着いた環境と、快適な学生生活を送ることのできる絶好のロケーションにあります。

世田谷キャンパス

大学院 総合理工学研究科、大学院 環境情報学研究科［都市生活学専攻］
理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部、都市生活学部、人間科学部

〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1
TEL:03-5707-0104(代)
東急大井町線
「尾山台（東京都市大 世田谷キャンパス前)」駅 徒歩 12 分

東京と神奈川の境を流れる多摩川の畔に位置するキャンパス。東京 23 区内の私立大学で主に理工系学部を有するキャンパスでは最大規模の敷地面積を有し、自由が丘や二子玉川など、人気エリアへのアクセスも良好です。

国際学生寮
世田谷キャンパスまでは徒歩３分。閑静で治安もよく、多摩川が近くに流れる自然も豊かな立地で、勉学に集中できる環境が整っています。外国人留学生との共同生活の中で、異文化を理解しグローバルに活躍する力を養います。

子育て支援センター「ぴっぴ」
世田谷キャンパス内の子育て支援施設です。０歳から就学前までの子どもと保護者を対象とした遊び場であり、保育者を目指す人間科学科の学生の研修の場でもあります。

横浜キャンパス

大学院 環境情報学研究科［環境情報学専攻］
環境学部、メディア情報学部、
デザイン・データ科学部

〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1
TEL: 045-910-0104(代)
横浜市営地下鉄ブルーライン「中川（東京都市大 横浜キャンパス前)」駅 徒歩５分

環境に特別な配慮と工夫を凝らし、国内の教育機関で初めて環境に関する国際規格「ISO14001」認証を取得したキャンパス。エコ・キャンパスとしての一面だけでなく、最先端の情報設備も備えています。

脱炭素社会の実現に資する教育研究（※ P4 参照）実現のため設置された太陽光パネルと小型風力発電装置。

二子玉川夢キャンパス（二子玉川ライズ・オフィス内）開設：2015 年

〒158-0094 東京都世田谷区玉川 2-21-1 二子玉川ライズ・オフィス８階
TEL:03-5797-9504
東急田園都市線・大井町線「二子玉川」駅徒歩１分

教育研究活動や各種講演会をはじめ、子どもたちに科学や文化の楽しさを伝えるワークショップ、地域や産業界が抱える問題を解決するための連携活動など、多種多様な取り組みを行っています。

ナノ科学技術学際研究センター　開設：2016 年

〒158-8557
東京都世田谷区玉堤 1-28-1
TEL:03-5707-0104(代)

大型研究機器の共用による研究の効率化、研究領域を越えるシナジー創出、若手研究者の育成を推進しています。

総合研究所　開設：2004 年

〒158-8557
東京都世田谷区玉堤 1-28-1
TEL:03-5707-0104(代)

「持続可能な社会発展をもたらすための人材育成と学術研究」を実現すべく、最先端の研究開発を推進しています。

原子力研究所　（王禅寺キャンパス）　開設：1960 年

〒215-0013
神奈川県川崎市麻生区王禅寺 971
TEL:044-966-6131

放射性同位元素の取扱施設として、本学の実験・実習に使用し、社会が求める原子力・放射線技術者を育成しています。

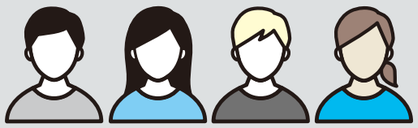
渋谷サテライトクラス　開設：2010 年

〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂 1-10-7 B1 階
TEL:03-5456-8571

早稲田大学との共同大学院の設置を契機に開設し、現在は、社会基盤マネジメントプログラムや特別講義も行っています。

DATA FILE ［データファイル］

学生数※1



7,851人

（学部 6,993 人、大学院 858 人）

専任教職員数※1

444人

（教員 276 人、職員 168 人）

図書館蔵書数※1

474,125冊

研究室数※1

191研究室

卒業者数・修了者数

112,735人

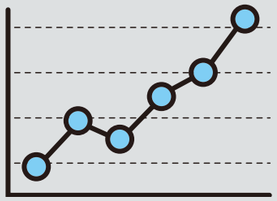
（2022 年 9 月卒業まで、前身校の人数を含む）

就職率※2

97.7%

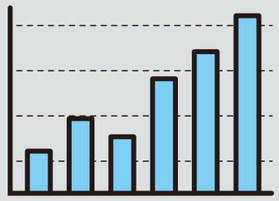
※ 全国平均 95.8%
（学部卒業生、文科省が定める「就職率」を使用）

経常収入額※2



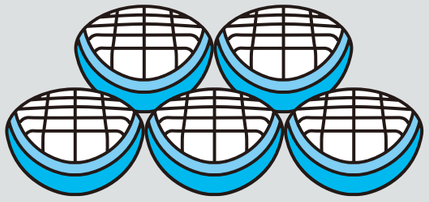
13,740,718千円

経常費等補助金額※2



1,620,253千円

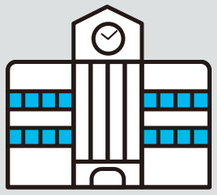
校地面積※1



218,901㎡

（東京ドーム約 5 個分）

校舎面積※1



94,936㎡

科学研究費助成事業（科研費）採択状況※2

112件

192,790千円

受託・共同研究受入状況※2

224件

527,826千円

データファイルページについて　※1 2022 年 5 月 1 日現在　※2 2021 年度実績